

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(7)-ア	まちづくりにおけるユニバーサルデザインの推進	施策	① 公共空間等におけるユニバーサルデザインの導入
			施策の小項目名	—
主な取組	公共交通利用環境改善事業			
対応する主な課題	①高齢者や障害者のためのバリアフリー化にとどまらず、子ども、観光客、外国人なども含め、すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を導入した環境づくりが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
県民や観光客の移動利便性の向上、高齢者や障がい者などのいわゆる交通弱者の移動の確保、中南部都市圏の交通渋滞緩和、低炭素社会の実現を図ることを目的に、公共交通の利用者を増大させるための利用環境の改善を図る。		64%	66%	68%	70%	70%
実施主体	県、交通事業者	ノンステップバス導入				
担当部課【連絡先】	企画部交通政策課 【098-866-2045】	IC乗車券の船舶・タクシーへの拡張に向けた課題整理	IC乗車券の拡張利用に関する調査・検討・導入支援			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 公共交通利用環境改善事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：バス停上屋整備3ヶ所、車内案内表示器25台、バスレーン延長等検討調査、公共交通利用促進調査検討(キャンパスバス実証実験)、広報等を実施する。	
一括交付金(ソフト)	補助	1,001,848	535,389	228,514	237,552	107,782	91,859	一括交付金(ソフト)	OR3年度：ノンステップバス1台、バスレーン延長等検討調査業務、公共交通利用促進に向けた調査検討業務、周知広報等を実施した。	
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：	
									OR3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	ノンステップバス導入率				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	66.7%	70.1%	72.0%	71.6%	71.6%	70.0%	100.0%	107,782	順調	<p>活動概要</p> <p>バス停上屋等の整備を行ったが、コロナの影響によるバス事業者の経営状況等を考慮し、今年度のノンステップバス導入は見合わせた。バスレーン実施拡充を検討するとともに、てだこ浦西駅～沖国大・琉大を結ぶキャンパスバス実証実験を開始した。自家用車から公共交通への利用転換促進を目的に広報活動を実施した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>ノンステップバスについては、令和3年度までの10年間で219台の計画に対し、これまでの累計で218台を導入しており、概ね計画どおりに進んでいる。</p> <p>ノンステップバス導入により、交通弱者を含む全ての利用者の乗降性向上、乗降時間短縮による定時性向上に繋がり、全ての人を利用しやすい公共交通の環境づくりに寄与している。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値										
活動指標名					R2年度					
実績値										
活動指標名					R2年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンステップバス導入後の運用面について、引き続き、バス事業者等とサービス活性化に向けた意見交換を行い、現状や課題等の共通認識を図り、更なるサービスの改善に繋げる。</li> <li>・基幹バスルートの定時・速達性を向上させるため、新たなバスレーン延長区間におけるスケジュールの作成が必要である。</li> <li>・IC乗車券の拡張については、沖縄ICカード(株)の取組状況について、情報収集を行うとともに、OKICAの利用促進に取り組む必要がある。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンステップバスを導入した基幹バス区間における定時・速達性の向上を図るため、調査結果等を活用し、バス事業者等との意見交換によりサービス活性化に向けた現状や課題等の共通認識を図った。</li> <li>・基幹バス区間における定時・速達性の向上に資するバスレーン延長・拡充についての検討調査を行うとともに、国等、関係機関と調整を行った。</li> <li>・IC乗車券の拡張については、沖縄ICカード(株)とOKICAの利便性向上に向け情報収集を行ったところであり、現在、同社においてタクシーを含む商業展開について、関係者と具体的に検討を進めているところである。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・ノンステップバス導入事業実施にあたっては、バス事業者の多額の自己負担を伴うことから、経営状況を踏まえた車両更新計画を注視する必要がある。

##### ○外部環境の変化

・ノンステップバスについては、バス事業者の自己負担額も大きいと、コロナ感染症流行の影響による事業者の経営状況等を考慮して、令和2年度の導入は見合わせた。コロナウイルス感染症流行の影響が長期化する恐れがある。

・IC乗車券の拡張に関しては、タクシーを含むOKICAの商業展開について具体的な検討が進められるなど、環境の変化が見られる。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ノンステップバス導入効果を高め、利用者の更なる利便性向上に繋げるためにも、導入した基幹バス区間(那覇市～沖縄市)における基幹バスシステムの構築に向けた取組が必要である。

・基幹バス区間における定時・速達性を向上させるため、引き続きバスレーン拡充・延長に向けた取組が必要である。

・IC乗車券の拡張については、沖縄ICカード(株)の取組状況について情報収集を行うとともに、OKICAの利用促進に取り組む必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

・基幹バス区間における更なるサービス改善に繋げるためにも、定時・速達性に資する基幹バスシステムの構築に向け、バス事業者等との意見交換を通じて現状や課題等の共通認識を図るとともに、バスレーン拡充・延長について住民意見聴取を含めた検討調査や関係機関との調整を行う。

・IC乗車券の拡張については、沖縄ICカード(株)の取組状況について情報収集を行うとともに、「わった～バス党」を活用してOKICAの利用促進に取り組む。